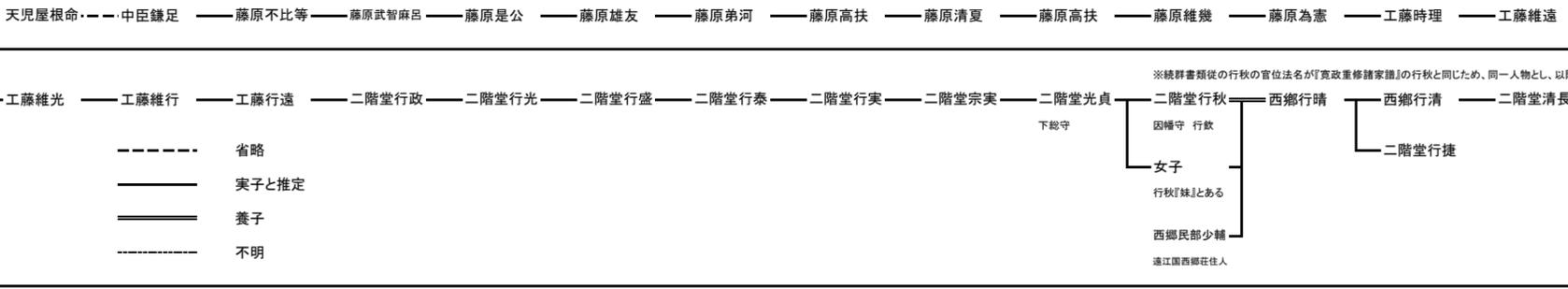


遠江石谷氏・袖師石ヶ谷家省略系図

※以降『統群書類従』に拠る



省略
実子と推定
養子
不明

※統群書類従の行秋の官位法名が『寛政重修諸家譜』の行秋と同じため、同一人物とし、以降同書に拠る
西郷行晴
西郷行清
二階堂行捷
二階堂清長

石谷政清

今川・徳川家臣

入澤行重
五右衛門 武田家に仕える
甲陽軍艦に駿河衆として入沢五右衛門の名前があるが、同一人物か不明

呑雪
太平山天酌院龍淵寺十二世住職
徳川家康から曹洞宗の総録を許すと云われるが辞す。

旗本700石家

石谷政信
旗本 200石

石谷政勝
裏門番頭 500石

石谷成勝
布衣 納戸頭

石谷清長
石谷清亮の子
書院番 700石

石谷清定(兵四郎)
久松定矩の次男

石谷清養
石谷清長の子
妻は新井白石の娘
布衣 西ノ丸御徒頭

石谷清盈
書院番

石谷清茂
石谷清養の子
従五位下肥前守
持前頭

石谷清順
西ノ丸小納戸

石谷鍊蔵
女子
行秋『妹』とある

石谷房之丞
祖父は石谷織之丞

石谷清馨
石谷清長の娘

石谷清養
石谷清定(兵四郎)の養子となる

石谷清馨
石谷清長の養子となる

石谷清茂
石谷清盈の養子となる

石谷清儀
石谷清馨の養子となる

石谷清信
書院番

石谷清職
永井元孝の四男
先手鉄砲頭

石谷清胤
書院番

石谷清候
石谷清胤の子
小姓組

石谷清馨
石谷清養の子
進物役

石谷清儀
石谷清養の子
書院番

石谷清英
牧野成融の子
早死

石谷清高
石谷清養の子
神田正之の子

石谷清儀
石谷清英と石谷清高の妻

石谷清正
御徒頭 1100石

石谷清亮
屋敷改

石谷清信
書院番

石谷清職
永井元孝の四男
先手鉄砲頭

石谷清胤
書院番

石谷清候
石谷清胤の子
小姓組

石谷清馨
石谷清養の子
進物役

石谷清儀
石谷清養の子
書院番

石谷清英
牧野成融の子
早死

石谷清高
石谷清養の子
神田正之の子

石谷清儀
石谷清英と石谷清高の妻

石谷貞清
江戸北町奉行 1500石
従五位下左近将監
妻は板倉重昌の養女

石谷武清
禁裏附 2500石
従五位下長門守

石谷清成
早死 家督相続せず
喜多見重政

石谷榮清
石谷武清の家督相続
小姓組

石谷眞清
小姓組

石谷澄清
西ノ丸先手鉄砲頭

石谷因清
小姓組

石谷直清
仁賀保誠善の三男
火事場見廻

石谷穆清
江戸北町奉行
譜大夫(因幡守)

石谷鉄之丞(公清)
小姓頭取
譜大夫(安芸守)

石谷清全
紀州藩士
同本件之丞の子
徳川吉宗に依り旗本となる
西ノ丸留守番 500石
従五位下豊後守

石谷清昌
自は海防部右衛門の嫡
留守番 800石

石谷清定(豊前守)
小納戸
従五位下豊前守

石谷清豊
田沼意誠の五男
大目付分限帳改
従五位下周防守

石谷清香
家督相続せず
小姓 300俵

石谷金之丞
小姓組

石谷清重
徳川秀忠家臣

石谷清春
弥兵衛
駿河国足久保村浪人

石谷清宣
又大夫
尾張藩士 200石
成瀬隼人正の同心

石谷清紹
成瀬隼人正の同心

石谷清章
成瀬隼人正の同心

石谷清行
尾張藩士 250石
成瀬隼人正の同心
常心流馬術師範役

石谷又十郎
成瀬隼人正の同心
御馬預

石谷庄五郎
酒井林左衛門の子
御馬方本役

石谷又三郎
御馬乗見習

石谷清光
尾張藩士 五十人組
加藤貞四郎の妻

石谷清生
尾張藩士 切米18石
恭姫様御侍

石谷繁八
尾張藩士 切米140俵
長岡伊裏御番

石谷喜太郎
石谷喜太八

石谷清實
西郷又吉

石谷元政
佐々鍋四郎
成瀬隼人正同心竹居郷右衛門の婿養子となる

石谷清勝
弥兵衛

清房
十左衛門
※『藩士名寄』に尾張藩士300石足久保浪人石谷弥兵衛の子、十左衛門がいるが……

清冬
弥兵衛
※年代が旗本800石家の石谷清香(旗本家相続せず)と同じだが……

清秋
清久
清香
清高
女子
清足
女子
喜太郎
清
武男

清升
不詳
女子
五良兵衛
五左衛門
五郎八
五郎七
五郎作
五郎造
郭司

【家譜】

石谷、石ヶ谷は、読みを『いしがや』『いしがい』と読む。主要な家紋は九曜紋であるが、分家の800石旗本家は石持九曜・追沢瀧、袖師石ヶ谷家は土佐柏なども使用する。石谷氏の祖は遠江国佐野郡西郷庄石谷村の領主であった石谷政清である。石谷政清は祖を二階堂因幡守行秋(法名行欽)の妹とするが、同名・同法名・同官位の行秋は統群書類従工藤二階堂氏系図に収録されているため、行秋以前不明の寛永諸家系図伝等の記載に補筆した。この家系は古く西郷氏も称しており、西郷庄に居り山科家莊園代官を務めたと伝わる遠江三十六人衆の西郷氏との関係性が見受けられる。また、周辺の美人谷城跡や滝ノ谷城跡は、この一族に関連する城と伝説される。石谷政清は今川義元・今川氏真に仕えたこととされ、干城録においては西郷十八士の長であったと記載されるが、永禄12年1月26日に徳川家康より遠江国飛鳥内一色の新知行の宛行状として御黒印を賜り、元龜2年3月10日に子息の石谷政信、石谷清定と共に、徳川家康に仕えたことと記録される。他の子息も後年幕臣となったと考えられる。また、この一族は駿河国足久保に居り、安倍七騎として今川・武田・徳川の間に戦ったと伝わる石谷氏と関連性が深く、特に石谷政清の五男の石谷清重の家系との関連性が散見されるが、残念ながら確定資料が見つからない。石ヶ谷家系図は石ヶ谷五郎造の頃に古系図から写したものが現存するが、本紙は菩提寺にて焼失した。